

## 『ふりむかないで～葛城市編～』

春（はる）の牡丹（ぼたん）を 衣（ころも）にまとい  
うしろ姿（すがた）の すてきなあなた  
つれてゆきたい 當麻（たいま）の寺（てら）へ  
ふりむかないで 中将（ちゅうじょう）の姫（ひめ）

泣（な）いているのか 笑（わら）っているのか  
力自慢（ちからじまん）の 優（やさ）しい人（ひと）よ  
まわし姿（すがた）の 凜々（りり）しい男（おのこ）  
抱（だ）きしめたいな 當麻（たいま）の蹶速（けはや）

日本（にほん）の遺産（いさん） 古（ふる）き街道（かいどう）  
ゆっくり歩（ある）く 旅人（たびびと）ひとり  
人情（にんじょう）豊（ゆた）かな 娘（むすめ）を見（み）つめ  
手（て）をとりたいな 松尾芭蕉（まつおばしょう）

葛城山（かつらぎやま）の 立（た）つ雲（くも）のように  
静（しず）かに思（おも）う 万葉歌聖（まんようかせい）  
言（こと）の調（しら）べは 現世（げんせ）に伝（つた）わる  
ささやきたいな 人麻呂（ひとまる）よ

去（さ）りし弟（おとうと） 探（さが）し求（もと）めて  
一人淋（ひとりさみ）しく 見（み）つめるあなた  
鏡（かがみ）の池（いけ）に 面影（おもかげ）うつして  
祈（いの）っているわ 飯豊天皇（いいとよてんのう）